

「人間発達論」プロジェクト研究報告

Project and Research Subjects for the Development of Human Nature

梶山女学園大学教育学部教授

石橋 尚子
Naoko Ishibashi

梶山女学園大学人間関係学部教授

山口 雅史
Masafumi Yamaguchi

梶山女学園附属幼稚園長

梶山 美恵子
Mieko Sugiyama

梶山女学園附属小学校長

中村 太貴生
Takio Nakamura

梶山女学園高・中学校図書館長

佐久間 治子
Haruko Sakuma

1. 平成21年度の研究体制並びに研究方針について

(1) 平成21年度「人間発達論」プロジェクト研究体制について

人間学センター長より、平成18・19・20年度に引き続き、上記5名が研究員就任委嘱を受け、本研究プロジェクトを構成した。リーダー：石橋尚子。

(2) 平成21年度「人間発達論」プロジェクト研究方針について

平成21年度「人間発達論」プロジェクト研究方針については、平成18・19・20年度の研究スタイル(長期休暇を除き月1回程度の研究学会を持ち回りで開催し、相互理解と研究の進展に努力する)を踏襲し、これまでの研究成果を継続発展させるものであり、20年度同様、以下を中心的課題として取り組むこととした。

子ども達一人一人がどういう「人間になろう」と思っているのかの実態を把握するため、子ども達の持つ理想自己に関する調査を行う。

具体的には、①平成20年度実施の中学生・高校生並びに教員を対象とした「理想自己に関するアンケート調査結果」を学園内外に発表し(資料1・2)、研究の発展と今後の課題を明確化する。②小学生を対象とする理想自己に関するアンケート調査用紙を作成し、調査を実施する。③大学生を対象とする理想自己に関するアンケート調査を実施する。以上、3つの課題に取り組むこととした。

2. 平成21年度研究会活動報告

本年度は、上述の研究方針に従い、3回の研究会とアンケート項目検討会(協力：附属小学校教員)を行うとともに、日本教育心理学会第51回総会でのポスター発表、梶山女学園高等学校・中学校教職員研修会での調査データ報告、梶山女学園大学附属小学校の児童並びに梶山女学園大学人間関係学部・教育学部の学生を対象としたアンケート調査を実施した。その概要は以下の通りである。

尚、これらが可能となったのは、学園研究費補助金(A)の交付に依るところが大きい。ここに謝意を表したい。

○第1回研究会 平成21年8月21日(金)
於教育学部石橋研究室

:平成21年度の研究体制と方針について。

○第2回研究会 平成21年9月30日(水)
於附属幼稚園:日本教育心理学会第51
回総会でのポスター発表結果報告。

○第3回研究会 平成21年10月28日(水)
於教育学部石橋研究室:アンケート調査
項目についての附属小学校3年生~6年生
の各担任教師からのコメントを受けて、
調査項目等の検討並びに改定。

●日本教育心理学会第51回総会でのポス
ター発表2件(資料1・2)

平成21年9月21日(月) 於静岡大学

●椋山女学園高等学校・中学校教職員研
修会での調査データ報告 12月15日(火)

●椋山学園大学附属小学校3年生・4年生
・5年生・6年生、並びに椋山女学園大
学人間関係学部生・教育学部生を対象と
したアンケート調査の実施(12月)。

●アンケート調査結果の入力と分析(1月
以降)。

3. 椋山女学園における理想自己の育ち に関する質問紙調査について(1) ~中学生・高学生並びに教師への 調査結果を中心に~

椋山女学園高等学校・中学校教職員研修会
での調査データ報告で使用したレジュメを掲
載して、報告に換える。

椋山女学園高等学校・中学校教職員 研修会 報告用レジュメ

理想自己に関する発達の研究

「人間発達論」プロジェクト

椋山美恵子(椋山女学園大学附属幼稚園)
中村太貴生(椋山女学園大学附属小学校)
佐久間治子(椋山女学園高等学校・中学校)
山口雅史(椋山女学園大学人間関係学部)
石橋尚子(椋山女学園大学教育学部)

本研究の目的

- 一貫校の中学生が抱く自己像(理想自己に
対する自己評価)について検討する。
- 一貫校の高校生が抱く自己像(理想自己に
対する自己評価)について検討する。
- 両者の比較検討を行う。
↓
- 「理想の人間像を目指して育つ子供を、効果
的に援助する教育のあり方」を検討する研
究の基礎資料とする。

研究方法

- 調査対象者
S女学園中学校生徒 620名
S女学園高等学校生徒 1,145名
計 1,765名
全て女子
- 調査方法
クラス単位での質問紙による一斉調査
調査者:担任教師

調査項目の作成

- 大学生対象の予備調査結果
- 教師が教え子に期待する人間像調査結果
- 理想自己に関する文献研究結果



22の理想自己項目を作成

- 現在の到達状況を4段階で自己評価

中学生と高校生の比較

- 中学生と高校生の自己評価傾向は類似
 - 全般的に肯定的評価。
 - 最高評価項目は「周囲の人とのつながりを大切にする」で、共通。
 - 低評価項目3つも、共通。
- 中学生<高校生
 - 22項目中19項目で、高校生が有意に高得点。
 - S女学園中高一貫教育の成果か？

中学生が抱く自己像(理想自己に対する自己評価)

- 肯定回答率60%以上の項目が16個
→ 自己評価が比較的高い傾向？
- 高評価項目
「周囲の人とのつながりを大切にする」
「さまざまな考え方や生き方を認めることができる」
- 低評価項目
「自分が好きである」「知識や教養が豊かである」
「人に頼らずに行動できる」

中学生の理想の将来像

- 第1位: 思いやりの心を持っている
- 第2位: 人から信頼される
- 第3位: 自分の行動に責任を持てる
- 第4位: 友達から好かれる
- 第5位: 何事も前向きに考えられる

高校生が抱く自己像(理想自己に対する自己評価)

- 肯定回答率60%以上の項目が19個
→ 自己評価がより高い傾向
- 高評価項目
「周囲の人とのつながりを大切にする」
「さまざまな考え方や生き方を認める」「社会への関心を持っている」
「高校生として常識ある行動がとれる」「目標を持って物事に取り組む」
「自分を大切にできる」「思いやりの心を持っている」
- 低評価項目
「知識や教養が豊かである」「自分が好きである」
「人に頼らずに行動できる」

高校生の理想の将来像

- 第1位: 思いやりの心を持っている
- 第2位: 人から信頼される
- 第3位: 自分の行動に責任を持てる
- 第4位: 相手の立場に立って
物事を考えられる
- 第5位: 目標をもって物事に取り組む

教師に共通して支持された将来像

- 「思いやりの心を持っている」
- 「相手の立場に立って物事を考えられる」
- 「思いやりの心を持っている」が、すべての学校で第1位。
- 相手を思いやることが、どの年齢でも重視されている。

中高で支持された将来像

- 「社会人として常識ある行動がとれる」

青年期に入ることであり、
社会の一員としての資質が期待される時期。
↓
社会人としての自立を促すことを意識している。

幼稚園で支持された将来像

- 「自分を大切にできる」

初めて家庭を離れる自立の第一歩。
母子分離経験で、基本的信頼が揺らぐ時期。
↓
自己に対する信頼感を失わないよう
配慮しているのではないか。

教師の支持 高い 生徒の支持 高い

- 「思いやりを持つ」
- 「相手の立場に立つ」

思いやりが教師・生徒ともに重視されている。
「思いやり」については、多義的で定義が明確ではない。
今後、「思いやり」の具体像を探る必要がある。

小学校で支持された将来像

- 「ルールやマナーを守れる」
子どもだけで集団生活を始める時期。
↓
集団維持の基本能力を特に意識している。
- 「何事も前向きに考えられる」
生産性(勤勉性)の確立期。
↓
積極的に努力する姿勢を重視している。

教師の支持 低い 生徒の支持 高い

- 「人から信頼されている」
自己意識が高まる時期。
他者からどう評価されているかが大きな関心事。
- 「人に頼らずに行動できる」
精神的な自立の時期。
大人への依存から脱却し、独立した個人としての人間関係を確立しようとする。

教師の支持 高い
生徒の支持 低い

- 「常識ある行動がとれる」
- 「さまざまな考え方を認めることができる」

社会人として冷静な判断を求める項目。
友人との情緒的なかわりに関心が強くなっている時期。
教師は生徒に対して、より現実的な社会人としての態度を求めている。

教師の支持 低い
生徒の支持 低い

- 「女性らしさを大切にする」
ジェンダーへの戸惑いや反発もまだ少ない。
学校生活の中で、男女を意識することも少ない。
- 「社会への関心を持っている」
自社会へ関心はそれほど身近なことではない。
- 「自分が好きである」
自己評価が下がっている青年期の特徴を表している。

今後の課題

- 小学生用の質問紙を作成し、小学生を対象とした調査を実施する。
- 学園外に協力校を得て、広くデータを収集する。
- 生徒間・生徒と教師間の比較検討を深める。
- 「現在の自己評価」と「将来の理想像」との関連を検討する。
- 「思いやり」の具体像を明らかにする。

4. 椋山女学園における理想自己の育ちに関する質問紙調査について(2) ～小学生・大学生並びに教師への調査結果を中心に～

(1) 問題の所在と目的

子どもたちが将来、どのような人間に『なろう』と思うかは、それぞれの子どもが持つ目標としての人間像（理想の自己像）によって決まると考えられる。したがって、本学園の「人間になろう」という教育理念を実践するためには、子どもたちが自ら成長・発達していく上での理想とする人間像（理想自己）を、教師が適切に援助しつつ、育てていくことが必要である。そこで、そのような教育実践の基礎となる資料を収集することを目指し、子どもたち一人一人がどういう「人間になろう」と思っているのかの実態を把握するため、子どもたちの持つ理想自己に関する調査を行いたい。

昨年度は、生徒向け質問紙調査用紙並びに教師向け質問紙調査用紙を作成し、椋山女学園中学校生徒620名、高等学校生徒1,145名、椋山女学園大学教育学部生102名、教師（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）111名の計1,978名を対象に調査を行った。その結果を踏まえ、本年度は、小学生を対象とした調査の実施と分析を試みる。まず、附属小学校の協力を得て質問項目を十分に検討し、なるべく幅広い学年に実施可能な質問紙を作成する。次に、附属小学校の児童を対象に調査を実施したい。また、椋山女学園大学人間関係学部生と教育学部生のデータを追加収集し、高校生との関連を検討したいと考える。

(2) 調査対象者

椋山女学園大学附属小学校3年生59名、4

年生59名、5年生58名、6年生58名の計234名。

嵯山女学園大学教育学部1年生134名、人間関係学部生131名の計265名。

(3) アンケート調査用紙

平成20年度作成の理想自己に関する調査用紙：生徒用（「今の私・なりたい私」に関するアンケート調査用紙）を検討・改訂し、資料3の小学生用質問紙を作成した。設問内容は生徒用と同じである。

尚、大学生用は平成20年度版とまったく同じである。

(4) 調査結果

本報告書を作成している現時点では、まだすべてのデータ処理が終了していない。ここでは、小学生の基本集計結果の一部を紹介するに留めたい。理想自己22項目について、現在の自分の到達状況を自己評価してもらった結果を「現在の自分」。将来こんな人になりたいと、理想自己22項目から5つを選択してもらった結果を「将来の自分」としている。

《現在の自分》……………「今の私」

3年生 理想自己22項目中21項目において、「そのとおり」「だいたいそのとおり」の肯定回答が60%を上回っていた。肯定回答率80%以上の項目が、項目1・②・3・④・⑦・10・12・⑬・⑮・⑱・22の11個みられた（○数字は90%以上）。特に項目13の「意見や考えが自分とちがっていても、そういう考え方があるんだと思う」については、59名中58名が肯定回答（1名は無回答）であった。項目17「言葉づかいや行いが女の子のらしいかどうかは気にしない」については63%が否定回答で、「気にしている」と答えていた。（資料4）

4年生 理想自己22項目中21項目において、「そのとおり」「だいたいそのとおり」の肯定回答が75%を上回っていた（内80%以上18項目）。さらに、肯定回答率90%以上の項目が、項目1・2・3・4・13・15・18の7個みられた。項目17については69%が否定回答で、「女の子のらしいかどうかを気にしている」と答えていた。（資料5）

5年生 理想自己22項目中17項目において、「そのとおり」「だいたいそのとおり」の肯定回答が60%を上回っていた。肯定回答率80%以上の項目は、項目1・2・12・13・15・18の6個みられた。項目11「自分が好きである」と項目17「言葉づかいや行いが女の子のらしいかどうかは気にしない」は、肯定回答率と否定回答率が半々であった。（資料6）

6年生 理想自己22項目中19項目において、「そのとおり」「だいたいそのとおり」の肯定回答が60%を上回っていた。肯定回答率80%以上の項目は、項目1・②・4・7・8・10・⑬・15・18・22の10個みられた（○数字は90%以上）。項目17については否定回答率が57%で、「女の子のらしいかどうかを気にしている」と答える者がやや多かった。（資料7）

《将来の自分》……………「なりたい私」
として選ばれた項目を、学年別に上位5位まで示す。

3年生 （資料4参照）

第1位：項目1

「思いやりの気持ちを持っている（58%）」

第2位：項目5

「友だちからたよりにされている（42%）」

第3位：項目2

「だれとでも楽しく話したり、遊んだりできる (41%)」

第4位：項目12

「相手も気持ちを考えて行動することができる (36%)」

第5位：項目6

「女の子らしい言葉づかいや行いを大切にできる (34%)」

4年生 (資料5参照)

第1位：項目1

「思いやりの気持ちを持っている (53%)」

第2位：項目16

「友だちから好かれている (46%)」

第3位：項目5

「友だちからたよりにされている (39%)」

第4位：項目6

「女の子らしい言葉づかいや行いを大切にできる (36%)」

第4位：項目21

「やり始めたことは最後までやる (36%)」

第6位：項目2

「だれとでも楽しく話したり、遊んだりできる (34%)」

5年生 (資料6参照)

第1位：項目1

「思いやりの気持ちを持っている (66%)」

第2位：項目16

「友だちから好かれている (50%)」

第3位：項目2

「だれとでも楽しく話したり、遊んだりできる (47%)」

第4位：項目5

「友だちからたよりにされている (41%)」

第5位：項目7

「自分の苦手なことや嫌いなことも、“がんばるぞ”という気持ちでいることができる (38%)」

6年生 (資料7参照)

第1位：項目1

「思いやりの気持ちを持っている (62%)」

第2位：項目21

「やり始めたことは最後までやる (45%)」

第3位：項目5

「友だちからたよりにされている (40%)」

第4位：項目12

「相手も気持ちを考えて行動することができる (36%)」

第5位：項目19

「どんなことにもまじめに取り組む (33%)」

将来(理想)の自己像について、6年生の上位選択項目は、中高生の上位選択結果と非常に近いものとなってきている。このような中高生データとの比較検討や、大学生データの分析、出身園・校などとの関連性検討など、さらに丁寧で多様な検討を試みたいと考えている。

5. おわりに

平成21年度は、平成19年度から進めてきた「学園一斉質問紙調査」を、調査そのものはほぼ完了することができた年であった。今回の調査実施においても、学園研究費補助金(A)の交付はもちろん、相山人間学センターをはじめ、学園関係者の皆様の多面的なご支援とご協力を頂戴した。皆様のご高配に厚くお礼申し上げます。

この貴重なデータを充分に活用すべく、次年度以降も、尚一層研究に精進していきたい。益々のご指導・ご協力の程、忠心よりお願い申し上げます。

理想自己に関する発達的研究(1)

～中学生・高校生の自己評価を中心として～

○石橋尚子

(椋山女学園大学教育学部)

山口雅史

(椋山女学園大学人間関係学部)

目 的

子ども達が将来、どのような人間に『なろう』と思うかは、それぞれの子どもが持つ目標としての人間像(理想自己)によって決まると考えられる。人間性教育の重要性が強調されている今日、子どもが自ら成長・発達していく上で抱く理想の自己像を、周囲の大人(特に親や教師)が適切に把握しつつ、援助・教育していくことが肝要である。そこで本研究では、「理想の人間像を目指して育つ子どもを効果的に援助する教育のあり方」を検討する研究の一環として、まず中学生と高校生が抱く自己像(理想自己に対する自己評価)について明らかにしたい。尚、調査に当たっては、従来の研究で上げられる理想自己が「個人内の能力や特性の高さ」に視点が集中していること、大学生を対象とした予備調査(自由記述)でも公共性などの道徳的な特性への言及が乏しかったこと等を考慮し、社会人としての資質にも注目したいと考える。

方 法

大学生対象の予備調査結果、教師が教え子に期待する人間像調査結果(山口・石橋,2009)、理想自己に関する文献研究結果を参考に、Table1に示す22の理想自己項目を作成し、現在自分自身がどの程度到達しているかを4段階(よくあてはまる:3点,どちらかと言えばあてはまる:2点,どちらかと言えばあてはまらない:1点,まったくあてはまらない:0点:分析時得点化)で回答させた。

調査対象者は、S学園中学校生徒620名、同学園高等学校生徒1,145名の計1,765名。すべて女子生徒であった。調査実施は各担任教師。

結果及び考察

①中学生が抱く自己像(理想自己に対する自己評価)

中学生全体として、肯定回答(よくあてはまる+どちらかと言えばあてはまる)率60%以上の項目が16(1,2,3,4,7,8,12,13,14,15,16,17,18,19,20,22)項目みられ、自己評価が比較的高い傾向にあることが推測された。中でも評価が高かったのは、「2:周囲の人とのつながりを大切にする(平均得点:2.23)」「13:さまざまな考え方や生き方を認める(2.07)」「17:女性らしさにこだわらない(1.94)」「3:中学生としての常識ある行動がとれる(1.93)」など。評価が低かったのは、「11:自分が好きである(1.31)」「9:知識や教養が豊かである(1.33)」「10:人に頼らずに行動できる(1.45)」の3項目であった。

②高校生が抱く自己像(理想自己に対する自己評価)

高校生全体として、肯定回答率60%以上の項目は19個あり、自己評価がより高い傾向がみられた。高評価上位7項目(2,13,14,3,18,22,1)の平均得点はすべて2点を上回っていて、他の12項目も近接している。評価が比較的低かったのは、「9:知識や教養が豊かである(1.43)」「11:自分が好きである(1.48)」「10:人に頼らずに行動できる(1.53)」の3項目であった。

③中学生と高校生の比較

上述の結果より、中学生と高校生の理想自己項目に対する自己評価傾向は類似していて、全般的に高校生での向上がみられた(Table1)。S学園中高一貫教育の成果と言えるのかもしれない。

Table 1 自己評価得点の学校間比較 p<.05

1. 思いやりの心を持っている	中学<高校
2. 周囲の人とのつながりを大切にする	n.s.
3. 中学生として常識ある行動がとれる	中学<高校
4. ルールやマナーを守る	中学<高校
5. 人から信頼されている	中学<高校
6. 女性らしさを大切にする	中学<高校
7. 何事も前向きに考えられる	n.s.
8. 人の意見を素直に聞ける	中学<高校
9. 知識や教養が豊かである	中学<高校
10. 人に頼らずに行動できる	中学<高校
11. 自分が好きである	中学<高校
12. 相手の立場に立って考えられる	中学<高校
13. さまざまな考え方や生き方を認める	中学<高校
14. 社会への関心を持っている	中学<高校
15. 正しいことを正しいと言える	中学<高校
16. 友達から好かれている	中学<高校
17. 女性らしさにこだわらない	中学>高校
18. 目標を持って物事に取り組む	中学<高校
19. 何事にも真面目に取り組める	中学<高校
20. よく考えて判断できる	中学<高校
21. 自分の行動に責任を持てる	中学<高校
22. 自分を大切にできる	中学<高校

理想自己に関する発達的研究(2)

～教師による回答を中心として～

○山口雅史
(椋山女学園大学人間関係学部)

石橋尚子
(椋山女学園大学教育学部)

目 的

子供が発達の目標とする将来の理想像は、年齢に伴ってどのように変化するのであろうか。教師が教え子に期待する理想像を明らかにすることを通して、子供達の持つ理想像の変化や教師の期待との差異などについて検討する。

方 法

教師に対しては「教え子に期待する将来の理想像」を、生徒に対しては「将来になりたいと思う理想像」を質問紙により回答させた。

対象者は、中学高校教師 86 名、小学校教師 10 名、幼稚園教師 15 名、高校生徒 1,145 名、中学生徒 620 名。いずれも S 学園に所属する教師と生徒である。

結果及び考察

①教え子に期待する将来の理想像

「教え子に期待する将来の理想像」に対する教師の回答を学校種ごとに分析した。

すべての学校で共通して上位に選ばれたのは、「思いやりの心を持っている」と「相手の立場に立って物事を考えられる」の 2 つである。特に思いやりに関してはすべての学校で第 1 位に選ばれており、どの年齢を通じても重視されていることがわかる。

次いで、各学校でのみ上位に選ばれた項目を見ると、まず幼稚園で重視されていたのは、「自分を大切にできる」という項目である。幼稚園は、子どもにとって初めて家庭を離れ自立の第一歩を果たす場所であり、入園による母子分離経験に伴い既に確立している基本的信頼が揺らぐ時期でもある。そのため、自立性を確立する上で大切な自己に対する信頼感を失わないようにという配慮が教師の中にはあるのかもしれない。

小学校では、「ルールやマナーを守れる」、「何事も前向きに考えられる」が上位に選ばれている。ルールやマナーに関しては、子供だけの集団生活を本格的に展開するこの時期、集団を維持するための基本的な能力が特に意識されているのかもしれない。また、前向きに考えるという項目は、児童期が生産性（勤勉性）の確立期でもあることから積極的に努力する姿勢が重視された結果ではないだろうか。

中学高校では「社会人として常識ある行動がとれる」が選ばれている。これは、青年期に入り社会の一員としての資質が求められるようになりつつあることと関連しているのであろう。

②教師と生徒の回答の比較

中学高校の教師と生徒の回答の比較を行った。

教師、生徒ともに高く支持されたのは「思いやりを持つ」「相手の立場に立つ」などの思いやりに関連する項目で、思いやりが教師・生徒の立場の如何を問わず重視されていることがわかる。

生徒から高く支持され、教師には支持されなかった項目は、「人から信頼されている」「人に頼らずに行動できる」である。自己意識が高まっている青年期には、自己が他者からどう評価されているかが大きな関心事なのであろう。また、この時期は精神的な自立の時期でもあり、大人への依存から脱却し、独立した個人としての人間関係を確立しようとする時期でもある。そのため、「人に頼らず行動できる」ことが重視されているのではないだろうか。

逆に、教師から支持され、生徒からは支持されていない項目は、「常識ある行動がとれる」「様々な考え方を認めることができる」である。これらは情緒を抑制して社会人として冷静な判断を求める項目である。友人との情緒的なかわりに関心が強くなっている青年期、教師は生徒達に対してより現実的な社会人としての態度を求めているのかもしれない。

両者ともに低い項目は、「女性らしさを大切にする」や「社会への関心をもっている」「自分が好きである」であった。ジェンダー意識にかかわる項目や社会への関心という課題は、学校を中心とした生活を送るこの時期にはそれほど身近なことではないのかもしれない。特にジェンダー意識に関しては調査対象が女子校であることも影響している可能性がある。学校生活の中で男女を意識することもないため、社会の持つジェンダー意識への戸惑いや反発などもまだそれほど大きくはないのかもしれない。また、「自分が好きである」という項目が低いのは、自己評価が下がっている青年期の特徴を表しているのではないだろうか。

「今の私・なりたい私」に関する質問です。

問 1. あなたは今、自分をどのような人だと思っていますか。下のそれぞれの人物像について、今のあなたに、どのくらいあてはまるかを、「そのとおり」

「だいたいそのとおり」

「どちらかと言えばあてはまらない」

「まったくちがう」

の4つの中から1つ選んで、□(枠)に○を書き入れてください。

番号	人物像	そのとおり	だいたい そのとおり	どちらかと 言えばあて はまらない	まったく ちがう
1	思いやりの気持ちを持っている				
2	だれとでも楽しく話したり、遊んだりできる				
3	小学生として、はずかしい言葉づかいや行動ができる				
4	学校のきまりや電車などでのマナーを守ることができる				
5	友だちからたよりにされている				
6	女の子らしい言葉づかいや行いを大切にする				
7	自分の苦手なことや嫌いなことも、「がんばるぞ」という気持ちでいることができる				
8	人が言っていることは、「そうだな」と思う				
9	いろいろなことをよく知っている				
10	自分のことは自分でやれる				
11	自分が好きである				
12	相手の気持ちを考えて行動することができる				
13	意見や考えが自分とちがっていても、「そういう考えかたがあるんだ」と思う				
14	今、日本や世界でどのようなことが起きているかを知ろうとする				
15	正しいことを正しいと言える				
16	友だちから好かれている				
17	言葉づかいや行いが女の子らしいかどうかは気にしない				
18	目標を持ってものごとに取り組む				
19	どんなことにもまじめに取り組む				
20	どんなことでもよく考えてから決める				
21	やり始めたことは最後までやる				
22	自分のことをほめたり、「がんばった」と思うことができる				

問 2. あなたは、将来どのような人になりたいと思っていますか。下の 22 種類の人物像の中から、あなたがなりたいと思う人物像を5つ選んで、□の中に○を書いてください。
さらに、その5つの中で、1 番なりたい人物像を1つ選んで、□の中に○を書いてください。

番号	人物像	なりたい私 5つに ○をつける	5つの中で 1番に ○をつける
1	思いやりの気持ちを持っている		
2	だれとでも楽しく話したり、遊んだりできる		
3	小学生として、はずかしくない言葉づかいや行動ができる		
4	学校のきまりや電車などでのマナーを守ることができる		
5	友だちからたよりにされている		
6	女の子らしい言葉づかいや行いを大切にする		
7	自分の苦手なことや嫌いなことも、「がんばるぞ」という気持ちでいることができる		
8	人が言っていることは、「そうだな」と思う		
9	いろいろなことをよく知っている		
10	自分のことは自分でやる	⇒⇒	⇒⇒
11	自分が好きである	⇒⇒	⇒⇒
12	相手の気持ちを考えて、行動することができる		
13	意見や考えが自分とちがっていても、「そういう考えかたがあるんだ」と思う		
14	今、日本や世界でどのようなことが起こっているかを 知ろうとする		
15	正しいことを正しいと言える		
16	友だちから好かれている		
17	言葉づかいや行いが女の子らしいかどうかは気にしない		
18	目標を持ってものごとに取り組む		
19	どんなことにもまじめに取り組む		
20	どんなことでもよく考えてから決める		
21	やり始めたことは最後までやる		
22	自分のことをほめたり、「がんばった」と思うことができる		

★最後に、あなたが卒業した園の名前を、○○幼稚園や○○保育園と書いてください。

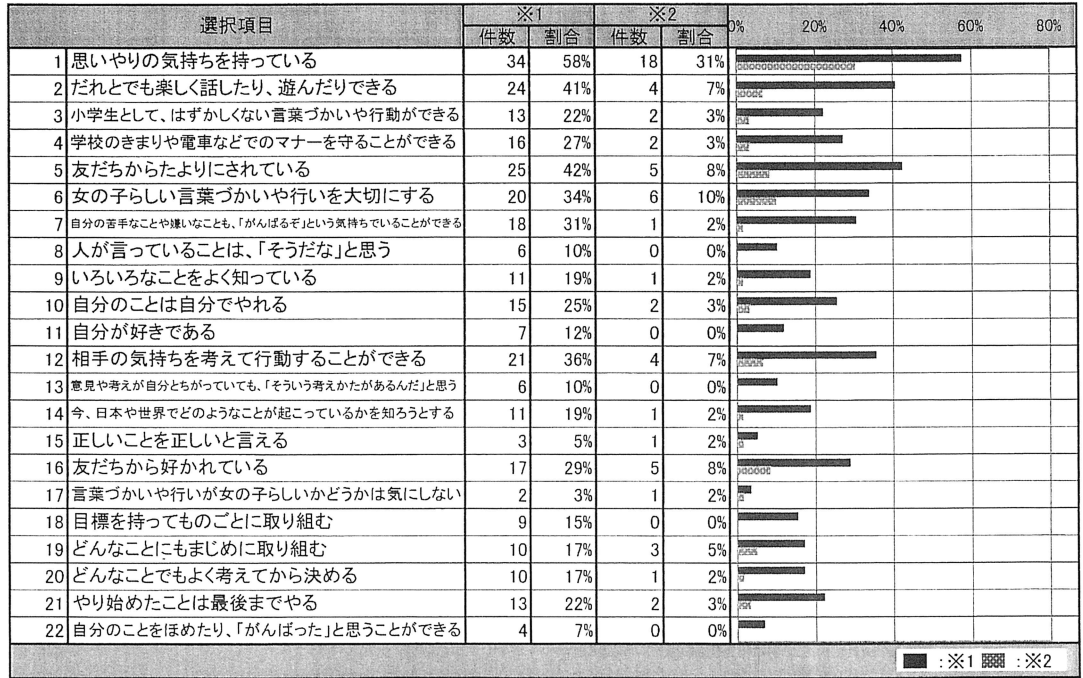
ご協力、ありがとうございました。

問1 あなたは今、自分をどのような人だと思っていますか



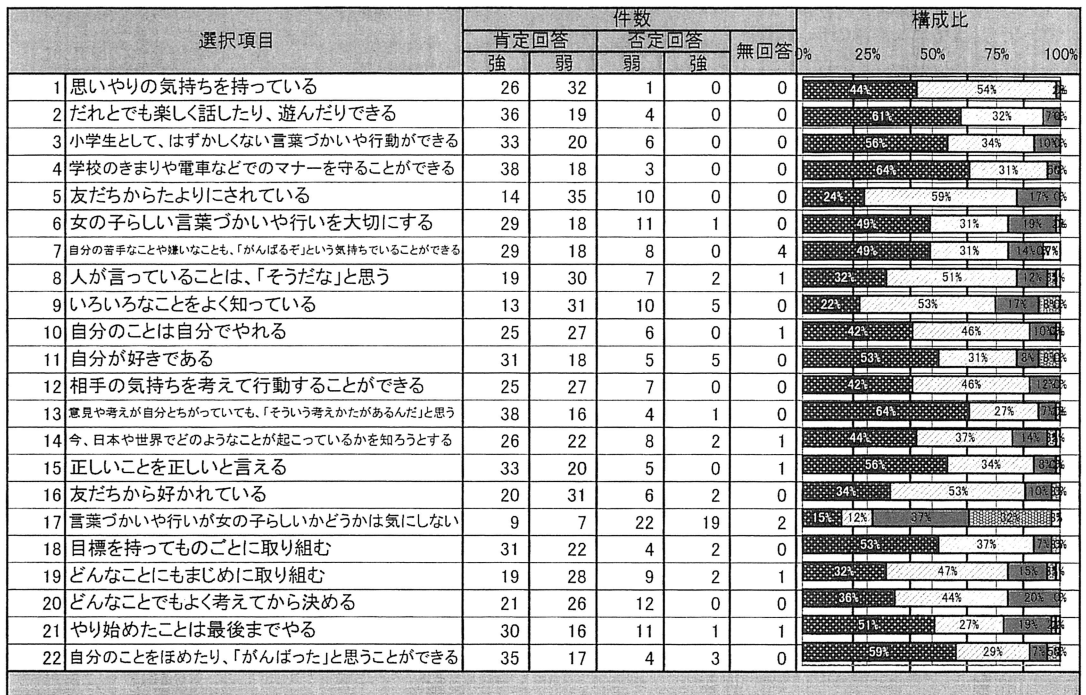
問2 あなたは、将来どのような人になりたいと思っていますか

※1. 22項目の内から5つ選択
※2. 選択した5つから1番を選択



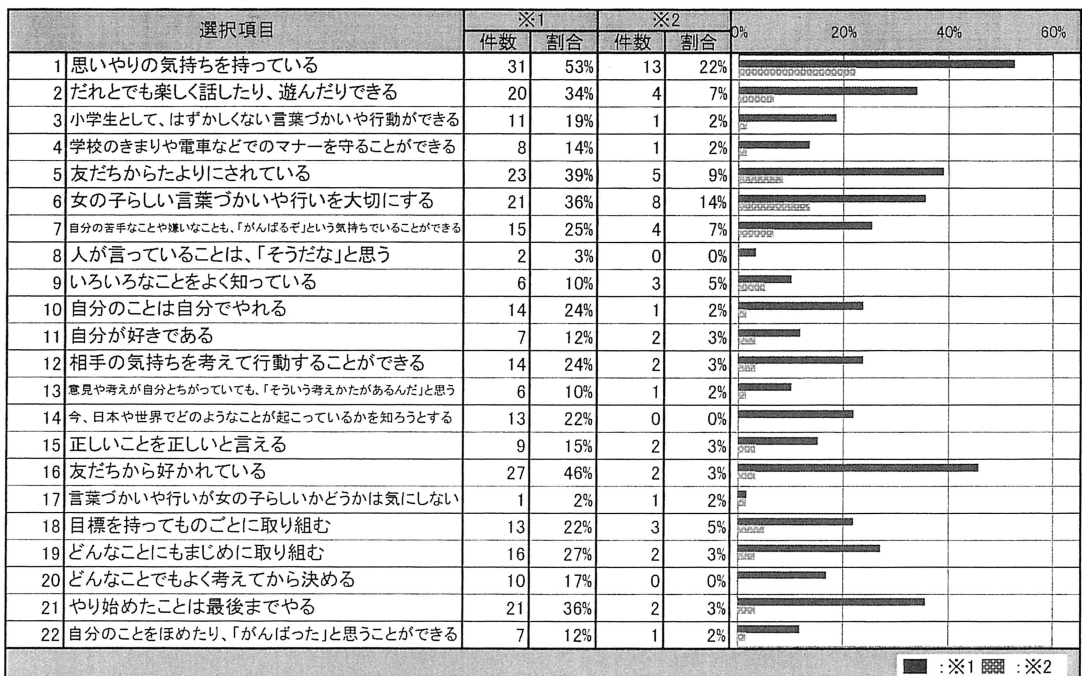
※1. 複数回答につき、割合は回答者数を母数にして算出しています。
※2. 単数回答につき、割合は合計を母数にして算出しています。

問1 あなたは今、自分をどのような人だと思っていますか



問2 あなたは、将来どのような人になりたいと思っていますか

※1. 22項目の内から5つ選択
 ※2. 選択した5つから1番を選択



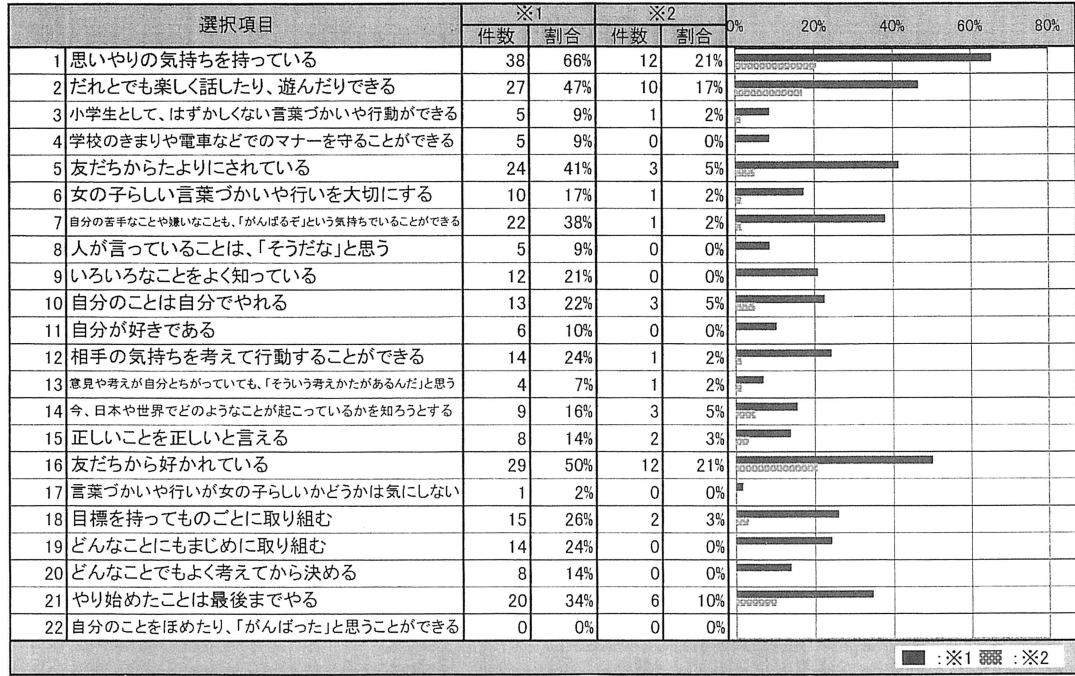
※1. 複数回答につき、割合は回答者数を母数にして算出しています。
 ※2. 単数回答につき、割合は合計を母数にして算出しています。

問1 あなたは今、自分をどのような人だと思っていますか



問2 あなたは、将来どのような人になりたいと思っていますか

※1. 22項目の中から5つ選択
※2. 選択した5つから1番を選択



※1. 複数回答につき、割合は回答者数を母数にして算出しています。
※2. 単数回答につき、割合は合計を母数にして算出しています。

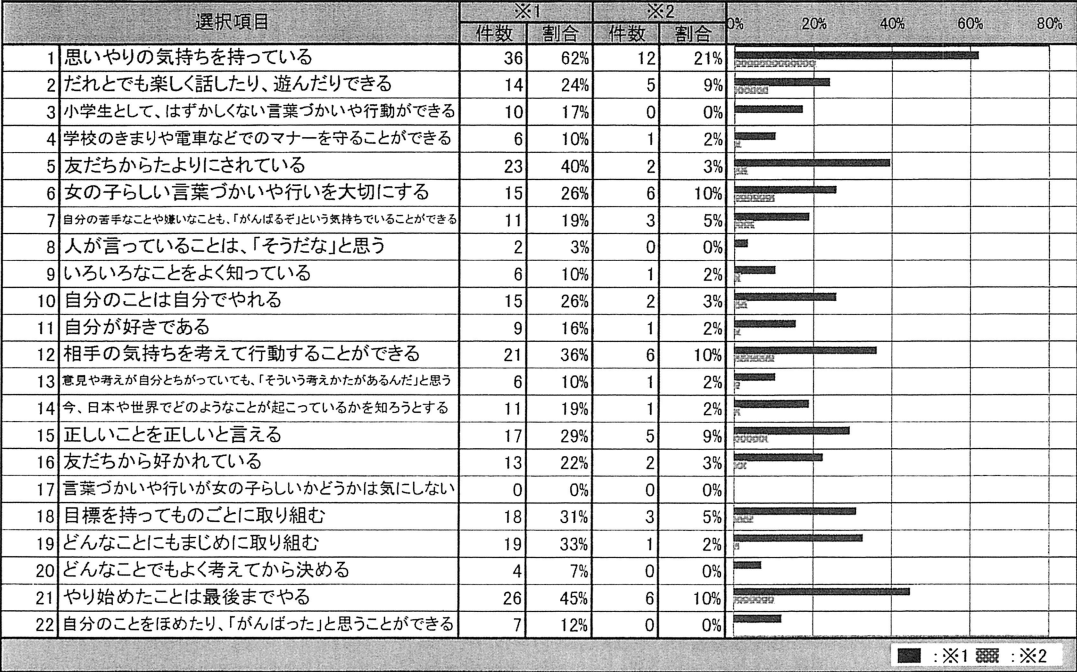
問1 あなたは今、自分をどのような人だと思っていますか



肯定回答(強): そのとおり 肯定回答(弱): だいたいそのとおり
否定回答(弱): どちらかと言えばあてはまらない 否定回答(強): まったくちがう 無回答

問2 あなたは、将来どのような人になりたいと思っていますか

※1. 22項目の内から5つ選択
※2. 選択した5つから1番を選択



※1. 複数回答につき、割合は回答者数を母数にして算出しています。
※2. 単数回答につき、割合は合計を母数にして算出しています。